

第5回滋賀のモノづくりを支える物流研究会 意見交換会 概要

日時 平成30年2月9日（金） 11:00～12:00

場所 大津合同庁舎 7階 7-C会議室

<意見交換 滋賀のモノづくりを支える物流の基本的な方向性等について>

(座長)

- ・最終回である本日は、「本県における課題やニーズに対応していく取組の方向性」を確定し、新たな具体的取組の提案を本研究会の成果の一つとしたいのでご意見をいただきたい。

(委員)

- ・プラットフォームの事業計画に魂を入れていくために、全面的に協力していきたい。
- ・こうした取組を推進するにあたっての究極の問題は人材であり、ドライバー不足の状況に左右されるのではないか。労働時間の問題や運賃・料金の問題などトラック運送業界は様々な課題を抱えているが、ラストマイルはやはり人手が必要。
- ・AIを含めた自動運転、連結トラックなどの試みが進められているが、トラックは人の手によるアナログの世界が必要であり、アナログとデジタルの接点が一番のポイントになる。その辺りも含め、将来に向けてこの平面の絵が立体的な絵になるようにしていきたい。

(座長)

- ・人が大事というのは全くその通り。ドライバーも大事で、プラットフォームに参画する人や消費者のマインドも大事になってくる。人が支える部分は大きい。

(委員)

- ・プラットフォーム実現の鍵は機能であり、既にある物流機能をプラットフォームのニーズに合わせられるかどうか。
- ・また、新しい機能を付けていくことも今後の発展要素。この事業の要であるトラック運

送をいかに充実させていくかという議論の中で、プラットフォームが必要になってくる。

- 輸送力の確保が第一であり、運送事業者の走りやすい環境づくりが課題の一つ。
- 人づくりや人の確保は個々の物流事業者の努力によるところが大きい。トラック協会並びに倉庫協会では、第二新卒に注目しており、こうした人の就職先として新たに物流業界へのニーズが出るかもしれないが、個人情報の制約からオープンにされないため、踏み込んでいくことも課題の一つと考える。
- 物流業界はプラットフォーム事業に全面的に参画してまいりたい。

(座長)

- 貴重な意見で、基本的な方向性についてはディープな部分もやっていかないと根本的な解決に繋がらないという話であり、提案の中身をいっそう精査していく必要がある。

(委員)

- 取組について荷主や物流の企業全体に周知・広報を徹底することが必要。
- プラットフォーム事業や地方拠点型共同運送を滋賀県から始めることは非常に良いことで、実行とそのモニタリングが大事である。
- 人の面では、滋賀県の廃業率が最も高いという話があるが、高齢者ドライバーの廃業もあるのではないかと。
- 物流業界をはじめ産業全体の人材不足が進み、製造業を含めた全産業の最大の経営課題が人材確保となっている。これを働き方改革とどのように結び付けていくか。
- 滋賀県だけでできる話ではないが、方向性の実行にあたって避けて通れない。併せて、モニタリングをどうしていくかという点も検討いただきたい。

(座長)

- プラットフォームの実行性に対するモニタリングは大事で共感する。
- 一番重要であるコーディネーターがしっかりしていれば、モニタリングしなくても上手く機能するので、集団をまとめる人材は非常に大事。

(委員)

- 課題共有の場を希望する荷主企業にとって、取組の方向性は望みどおりのもの。

- ・企業が独自に続けてきた自社の物流を他社と融合させるのは簡単ではないが、社内のみではアイデアが出ないので、他社と触れ合いながら良い物流ができればと考えている。
- ・実行のフェーズでは、それぞれの物流を運送会社や倉庫会社と一緒に考えるにあたって、課題が多く出ると想定している。自社のみで考えた場合でもいくつか課題があるが、ここを乗り越えないと滋賀の魅力に繋がらない。

(座長)

- ・色々と課題がある中、細かい部分を見ると簡単にはいかないが、企業側からも建設的な意見をいただいている。

(委員)

- ・研究会の方向性や事業提案はいずれも企業単独ではできないことでもある。協力できるところは積極的にやらせていただきたい。
- ・物流の厳しさと重要性は感じており、会議後に会社でできることを話し合っている。
- ・短期的にできることとして、ドライバーが工場内通路を楽に曲がれるようにするなど、少しでも負担を減らすことから始めようと社内で検討している。これからも様々な形でバックアップし、共存に向けて進めたい。

(委員)

- ・年々、ドライバー不足が深刻になっており、地域によっては「配送できない」と断られることもある。ガソリンの高騰もあって、運賃の値上げ要請の声が増えている。
- ・3つの論点について取り組むことは非常に重要であるが、一企業ではできない。
- ・人材では資格取得に費用が掛かるので行政の支援があると良い。人材確保は非常に興味があり、成功例があればぜひ情報共有したい。
- ・効率化・高度化で言えば、ビール業界などで共同物流が進んでいるが、情報を「見える化」することが必要。
- ・運送量があり、拠点や倉庫もあるという滋賀の強みの中で、物の流れを「見える化」とマッチングしやすいのではないかと。例えば、物量が増えるピーク時にトラックや倉庫を確保したい企業と逆の動きの業界や企業があれば、上手く連携させて互いのメリットを出せるようできるかもしれない。その情報を得られないのが現状であり、自社製品

の業界を超えた様々な業界の広い情報を「見える化」することで、具体的なマッチングが進むのではないか。

- ・道路環境も重要であるが、これは行政の役割で、3つの論点を並行して実行していくことがキーである。

(座長)

- ・最後の道路環境については声が弱いと進まない。道路が劣化すると物流は取り組めない
ので、インフラ整備に対してもっと声を上げる必要がある。
- ・物流がモノづくりを支える中で、その物流を支えるものが下部構造のインフラである。
政治、経済、文化といった上部構造にあたるスープラは、インフラがあって初めて成立
するワンセットのものであると声を上げなければならない。

(委員)

- ・弊社では非常に狭い範囲で情報を集めながら共同物流や往復輸送に取り組んでいるが、
プラットフォームで情報を共有できれば、車両の有効活用の効果が出ると思う。
- ・また、積み込み、荷下ろしなどに時間を掛けない方法にも取り組んでおり、ニーズがあ
ればさらに改善していきたい。プラットフォーム事業を実現してほしい。

(委員)

- ・プラットフォーム事業に大変期待している。
- ・「こういうものがあればいい」という声を色々なところから聴くが、「なかなかできない」
「やってみたけれども上手くいかなかった」といった話も聴く。
- ・企業の顔が見えるプラットフォームでは、1回で上手くいかななくても、2回、3回と顔
を合わせていくことによって、情報共有が進むものと期待している。

(委員)

- ・滋賀の実質的な有効求人倍率は近畿で最も高く、参考数字の就業地別求人₁で1.6倍を
超えており、人手不足が非常に厳しいという認識。
- ・ハローワーク大津では4月から人手不足コーナーを設置し、その対策に取り組む予定。
- ・滋賀の産業を支える人づくり事業が今年度から始まり、ハローワークも支援しているが、

若者、女性、高齢者の物流業界に対する関心を高めていく必要があり、異業種の方にも物流に目を向けてもらおうと考えている。

- ・事業主の協力で実習していると伺っており、実習先は負担になると思うが、一度失敗しても引き続き協力いただきたい。来年度も事業が継続されるときは積極的に求職者を送り込みたい。
- ・もう1点、国では働き方改革を進めているところであり、長時間労働の短縮や年休の計画取得など、労働環境改善の取組に業界全体で事業所の背中を押していただきたい。その積み重ねが業界のイメージアップと就職希望者の増加に繋がる。人材開発の助成金なども活用して進めていただきたい。

(座長)

- ・物流の人づくりをサポートするという意見はありがたい。
- ・ただ、業界のイメージ向上はなかなか難しい。働き方改革はイメージ向上に繋がるだろうが、問題はもっと根本的なところにあり、別途議論する場が必要。

(委員)

- ・人づくり事業は、求める人に施策が伝わるよう、広報に創意工夫が必要。
- ・もう1つ、プラットフォーム事業も一番大事なのは周知・広報であって、求める人に伝わらないと上手くいかないのでは、十分検討していただきたい。

(座長)

- ・周知・広報は非常に大事で、物流も世の中にその大事さが全然伝わっていない。役に立っていることをアピールしていくべきであるが、そうした場があまりないので、そのためにもプラットフォームが必要。

(委員)

- ・今回のプラットフォームは、マッチングに取り組んでいく中で上手くいかないケースもあると思うが、そうした失敗事例を収集し、「どうしてそうなったのか」と反省しながら上手く回していくことも大事。
- ・例えば、土地利用規制や道路整備、人材確保の問題など、行政内の関係課の連携も大事。

- ・物流を中心とする事業者の様々なニーズについて意見交換していく中で、人材の充足や業務の効率化に必要な技術的な支援やサポートを考えたとき、地域の中で技術的な部分はモノづくりが支え、そのモノづくりを物流が支えるという循環が回ることを期待したい。

(座長)

- ・上手くいかないときの対処や内部の体制づくりについて、横や縦の繋がりが必要になるので、事務局で検討いただきたい。
- ・一通り意見をいただいたが、異論はなかったので、この提案を研究会の一つの結論とさせていただきます。(異議なし)

事務局

事務局として、次年度に向かって準備を進めていきたい。〔了〕